

[特許]2003-522332

[受付日]平成17.12.13

1

【物件名】

刊行物 3

【添付書類】

10 208

刊行物 3

⑤ 日本国特許庁(JP)

⑥ 実用新案出願公開

⑦ 公開実用新案公報(U)

昭60-80717

⑧ Int. Cl.

A 45 D 34/04  
40/26

識別記号

庁内整理番号

6571-3B  
6571-3B

⑨ 公開 昭和60年(1985)6月5日

審査請求 未請求 (全1頁)

⑩ 考案の名称 ペースト状化粧料用容器

⑪ 実 願 昭58-173136

⑫ 出 願 昭58(1983)11月10日

⑬ 考 案 者 多 比 羅 春 代 東京都中央区日本橋3丁目6番2号 株式会社小林コーセー内

⑭ 考 案 者 小 木 胡 男 東京都中央区日本橋3丁目6番2号 株式会社小林コーセー内

⑮ 出 願 人 株式会社 小林コーセー 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

⑯ 実用新案登録請求の範囲

(I) ペースト状化粧料を収容する口紅型収容体の上部に蓋布面を形成し、該蓋布面の中央部に開口部を穿設し、

(II) かつ、前記口紅型収容体の基部に台座を回転自在に連結し該台座に螺子杆を立設して前記口紅型収容体内に起立せしめ、該螺子杆に可動受皿を螺合してなるペースト状化粧料用容器。

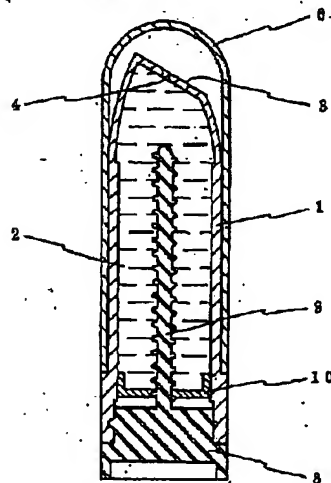
器。

図面の簡単な説明

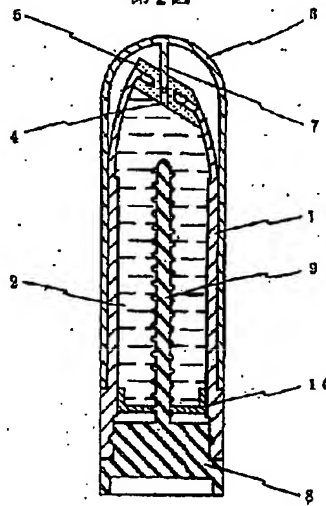
第1図は本考案の一実施例の縦断面図、第2図は他の実施例の縦断面図である。

1……口紅型収容体、2……ペースト状化粧料、3……蓋布面、4……開口部、5……台座、6……螺子杆、10……可動受皿。

第1図



第2図



## 公開実用 昭和60- 80717

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭60-80717

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

機別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)6月5日

A 45 D 34/04  
40/256671-3B  
6671-3B

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ペースト状化粧料用容器

⑯ 実 願 昭58-173136

⑰ 出 願 昭58(1983)11月10日

⑱ 考 案 者 多 比 羅 春 代 東京都中央区日本橋3丁目6番2号 株式会社小林コーセー内

⑲ 考 案 者 小 木 胡 男 東京都中央区日本橋3丁目6番2号 株式会社小林コーセー内

⑳ 出 願 人 株式会社 小林コーセー 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

3



## 明 細 書

## 1. 考案の名称

ペースト状化粧料用容器

## 2. 実用新案登録請求の範囲

- (i) ペースト状化粧料を収容する口缸型状収容体の上部に塗布面を形成し、該塗布面の中央部に開口部を穿設し、
- (ii) かつ、前記口缸型状収容体の基部に台座を回転自在に連結し該台座に螺子杆を立設して前記口缸型状収容体内に起立せしめ、該螺子杆に可動受皿を螺合してなるペースト状化粧料用容器。

## 3. 考案の詳細な説明

本考案は、ペースト状の口缸・アイシャドウ・ファンデーション・美容液・ほほ缸等の容器に関し、その意図するところは、本考案を利用し携帯性・使用性に富んだペースト状化粧料用容器を提供するものである。

従来、ペースト状化粧料の容器形態としては、キャップにより密封した罐体もしくはチューブ体とその殆どであった。それ故、消費者がペースト

## 公開実用 昭和60— 80717



状化粧料を使用する場合、箆もしくはスポンジチップ付筆等を必要とし、化粧に手間がかかり不便であり、この点の改善が切望されていた。加うるに、通常の髪体、キャップ体にあつては、形状的に新味に乏しく、消費者の多様な嗜好に答えるには不充分であつた。

本考案者らは斯る点に鑑み、従来製品に類を見ない斬新な形態と優れた携帯性、使用性を有する容器を得んとして鋭意検討の結果、本考案を完成するに至つた。すなわち、本考案は、ペースト状化粧料を収容する口缸型状収容体の上部に塗布面を形成し、該塗布面の中央部に開口部を穿設し、かつ、前記口缸型状収容体の基部に台座を回転自在に連絡し、該台座に螺子杆を立てて前記口缸型状収容体内に起立せしめ、該螺子杆に可動受皿を螺合した使用上便利なペースト状化粧料容器を提供するものである。

以下、本考案の構造をその実施例を示す図面に基つき説明する。

1 はペースト状化粧料 2 を収容する口缸型状収

5



容体であり、その上部に塗布面3が形成されてい  
る。4は該塗布面3の中央部に穿設された開口部  
であり、口缸型状収容体1内に収容されているペ  
ースト状化粧料2が外部に押し出される滲出口で  
ある。

また、第2図に示す如く塗布面3に開口部を有  
する弾性塗布体5を覆設すれば、ペースト状化粧  
料2の塗布がより容易かつ便利になる。弾性塗布  
体5の塗布面3への覆設方法は、貼着方法、嵌着  
方法等その手段を問わない。

6はキャップであり、口缸型状収容体1に着脱  
自在に嵌着している。また、第2図に示す如く  
キャップ6の内面中央部に、開蓋時に塗布面3中  
央部の開口部4を封止する気密用ボス7を突設す  
れば、携帯時に於けるペースト状化粧料2の開口  
部4からの漏出を完全に防止できる。これは、ペ  
ースト状化粧料2が流動性の高いものであった  
り、揮発性の高いものであるときには特に有効で  
ある。

8は台座であり、口缸型状収容体1の基部に回

## 公開実用 昭和60— 80717



転自在に連結している。また、台座8の上部中央には螺子杆9が立設されており、口缸型状収容体1内に起立せしめられている。さらに、螺子杆9には可動受皿10が嵌合されている。可動受皿10は、口缸型状収容体1内に嵌合内装され、台座8の回転により回転を阻止されて昇降自在となっている。この回転阻止手段は、例えば、口缸型状収容体1と可動受皿10とに凹凸条等を縦設して嵌合することにより行なわれる。

なお、口缸型状収容体1を透明な樹脂等で成型すれば、収容されているペースト状化粧料2の色が外から見えて視覚的な美観が得られ、またペースト状化粧料2の残量も確認できるので便利である。

ペースト状化粧料2の充填は、口缸型状収容体1の上部の開口部4から充填すればよい。また、開口部4の大きさはペースト状化粧料2の粘度及び種類並びに一回の使用量等の条件により適宜選択すればよい。

本考案は以上の如く構成したので、これを使用

する場合、キャップ6を外し、台座8を回転して可動受皿10を上昇させ、ペースト状化粧料2を口缸型状収容体1上部の開口部4から滲出させ、塗布面3もしくは弾性塗布体5にて化粧操作を行なうことができる。

以上詳述した如く、本考案のペースト状化粧料用容器は、従来の罐状あるいは、チューブ状のものに比して、その携帯性、使用時の簡便性が遙かに優れ、外出先等での化粧が非常に便利になる。

すなわち、従来、ペースト状化粧料を塗布する場合、筆もしくはスポンジチップ付筆等が必要であったが、本考案を利用すれば容器から直接使用部位に塗布できるので便利である。さらに、本考案は口缸型状に形成してあるので、塗布面3にて容易に線や面を描いたり、ペースト状化粧料2をのべしたりでき、形状による違和感も全くない。また、繰出容器でもあるので、ペースト状化粧料2の量を調節することも容易である。

#### 4. 図面の簡単な説明

8  
公開実用 昭和60— 80717



第1図は本考案の一実施例の縦断面図、第2図は他の実施例の縦断面図である。

- 1 …… 口缸型状収容体
- 2 …… ペースト状化粧料
- 3 …… 塗布面
- 4 …… 開口部
- 8 …… 台座
- 9 …… 螺子杆
- 10 …… 可動受皿

以 上

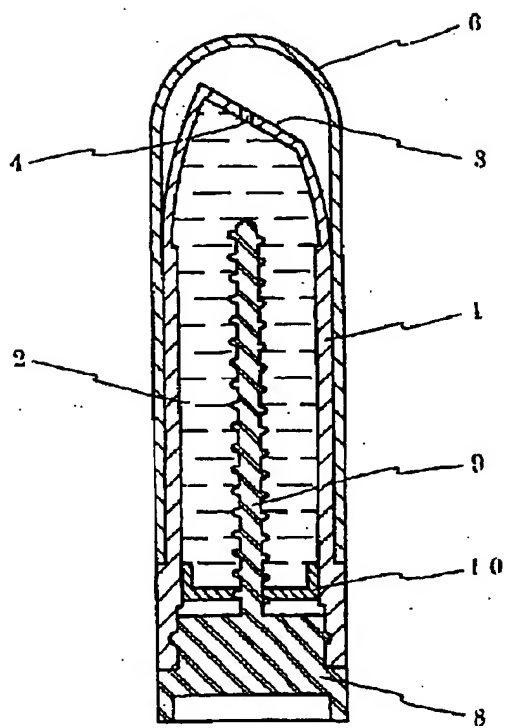
出願人 株式会社 小林コーセー



9

図 面

第 1 図



136

実開60-66117

公開実用 昭和60—80717

第 2 図

